自己評価および外部評価結果

〔セル内の改行は、（Altキー）＋（Enterキー）です。〕

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅰ.理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	ボランティアの来所、散歩回数の増加などを通じ地域の人との交流を図っている。	「入居者に自分の家と思って頂ける環境を提供し、入居者、ご家族に安らぎと安心を提供する」という理念を事務所に掲示し、毎日の申し送り時に唱和している。職員会議でも理想の介護に近付けるためにどうしたらいいか話合いを行っている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	町内会への参加。	事業所内の行事に地域の方にも参加してもらえるように、町内の掲示板にお知らせをし、最近は何人か参加してくれるようになった。地元の保育園との交流したり、中学生の職場体験を行う話もある。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	現状、あまりできていません。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	会議メンバー数の増加を図っている。	参加者は町内会長、民生委員、地域包括支援センター、家族、同じ地域にあるグループホーム職員等である。平日開催が多く、家族の参加が少ない傾向がある。参加者より事業所からもっと積極的に外部に発信した方がいい等活発な意見交換が行われている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	介護保険課への相談等実施している。	何か疑問があるときには社長自らすぐに支所や地域包括支援センターに相談している。事業所も開所から10年になり、担当者と顔なじみになり、些細なことでも相談できる関係作りを行っている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	拘束はないようにしているが玄関ドアについては最低限必要な範囲で施錠している。	身体拘束をしないケアを目指している。転倒等のリスクがある場合も居室を変更するなど、本人にあった対応を職員会議で検討し、実施している。やむを得ない場合は家族に説明をし、きちんと記録を残し、評価を行っている。	

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないよう注意を払い、防止に努めている	職員会議等で研修し、疑わしい例があれば検討するようにしている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	ご家族に制度の紹介、又、市担当者に相談を促したりしている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又はや改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	代表者が実施している。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	職員側から家族へ要望を聞く、声かけをしている。	家族の意見や思いを把握するため、面会時には職員から声をかけるようにしている。献立に揚げ物が多いのではないか、2人で歩行介助してほしいなど何でも意見を聞かせてもらい、出来る事はすぐに対応していくよう努めている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	職員会議で意見発表を促し適時に面談をしている。	職員会議を行い、自分の意見を積極的に言うように促している。コーチングやレクリエーションなどいろいろな分野への外部研修を勧めており、職員のスキルアップを図っている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	就業規則、倫理規定の改正を含めて実施している。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	各種外部研修の情報を可能な限り提示し、参加をよびかけ受講した内容を内部セミナーで研修している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	市、協会等の同業研修会等へ積極的に参加しいる。		

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	責任者ベテランが話しかけを行い人間関係、信頼関係　　につとめている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	可能な限りの情報収集につとめている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	事前情報の収集を大事にしている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	一緒に座ってゆっくり話しをする機会を設けている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	行事案内を送ったり、月間の様子をお知らせする通信を発行し家族の要望をきき家族への要望を発信している。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	友人等の来所を歓迎している。	家族の協力により外出や外泊をする利用者もいるが、多くはない。本人の友人から電話があったりもするが、個人情報の点から検討する部分もある。	利用者より、暖かくなったら、お墓参りに行きたいなどの希望もある。本人の希望や思いを聞き、家族の協力も得ながら一緒に行きたい所に行ける機会を増やしてほしい。
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	散歩の時の人の組み合わせ、座席の配置など配慮している。		

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	現状、あまりできていません。		
Ⅲ．その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	（9）	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	言葉にならない行動に表れる要望をつかむよう気をつけ日々の介護計画にはんえいさせている。	認知症があるため、思いを表現できないことも多いが、拒否されるときや表情などで本人の思いをくみ取り、何故そうなったのか考えるように努めている。担当者が日頃から利用者と関わり、他の誰よりも把握しているという関係を作ることができるようにしていきたいと話される。	職員が各自担当している利用者に対してえこひいきをしてもいいから、他の利用者よりも良く見て、他の職員にこう介助してほしいと伝える強さを持ってほしいと話される。そうした積み重ねにより利用者の生活がよりよいものになっていくよう期待している。
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居前により多く情報収集につとめ、入居後も漏れがないか気にかけている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	毎日のバイタルテェック、様子観察に努めている。		
26	（10）	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイディアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ケースカンファレンスの開催を通じて情報の共有に努めている。	プラン作成時には担当者が利用者や家族の希望や意見など情報収集をし、カンファレンスにて職員同士、意見交換を行っている。また主治医や看護師、栄養士などの意見も取り入れている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	記入し、ケースワークで協議している。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々に生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	あまり出来ていないが、要望があって、可能な限り、対応している。		

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	公園への散歩などを毎日実施している。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	通院は基本的に全てスタッフが送迎し、隔週、往診をして頂いている。	2週間毎に往診があり、定期処方や日頃の対応など相談し、健康管理を行っている。異変があった時はいつでも主治医に連絡し、指示を仰ぐことができる体制が整えられている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	職員の看護師に相談している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入退院時には情報の受渡しに努め入院中は定期に訪問している。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居時から説明し、その都度必要に応じて相談している。	入居時に重度化した場合の指針を丁寧に説明している。看取りの経験もあるが、最期の段階で病院へ入院する場合が多い。家族や本人の希望通り、事業所で出来る事はしていきたいという思いをもっている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	気付いた手当等は臨時を含め、定期の会議等に実習している。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	消防訓練、避難訓練を実施している。	年2回、避難訓練を実施している。地震や火災など災害時の対策について、消防署より指導を受けている。平成23年度にはスプリンクラーを設置している。	災害時には地域の方に避難所として事業所を利用してもらいたいと話される。運営推進会議などで事業所の思いを伝え、緊急時には地域の方にも協力してもらえる関係作りを期待している。

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅳ．その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	職員会議、ミーティングを通じ研修、実施している。	排泄ケアの際、汚物処理を他の利用者に見えないようにしたり、小さな声で声をかけるなど配慮している。日中はフロアに出ている利用者が多いが、お部屋で過ごすことが好きな人にはプライバシーに配慮しながら、見守りを行っている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	職員の都合による介護を禁止し、本人のペースで生活出来るようにしている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	職員の都合による介護を禁止し、本人のペースで生活できるようにしている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	朝の洗面時の整髪などお手伝いしている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	個別に合わせたメニューにも対応している。	同法人の栄養士が献立を作成しており、医師の指示により糖尿病食なども管理している。お盆や食器拭きなど利用者が出来る事は手伝ってもらっている。調理は職員が主となり行っているが、おやつ作りなど利用者と一緒にすることも多い。食事中は食べることに集中してもらうため、テレビは消すようにしている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	水分量チェック表などを利用している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	歯みがき誘導など行っている。		

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	本人の状態にこまめに合わせて使用のおむつ等の種類を変更している。	排尿の間隔が人それぞれなので、チェック表などによりパターンを把握し、誘導を行っている。できるだけ本人の残存能力を活かすよう支援をしていきたいと話される。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排便チェックを細めにし対応している。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	熱いのが好きな人、ぬるいのが好きな人、入浴時間などできるだけ個々に合わせている。	一日おきに入浴してもらっている。湯船につかる時間や温度など一人一人に合わせ支援している。機械浴も設置しており、重度化への対応もできている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々の状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	入眠時間などは一律ではなく、個々に合わせている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬ノートを作成しスタッフが知識を共有している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	歌の好きな人等、したいことをしたい時にして頂いている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	実家への帰り、その他希望を出来るだけ可能にしている。	衣料品やおやつ、日常用品など利用者と一緒に買い物に行っている。できるだけ本人自ら、支払いなどをしてもらい、買ったと実感できるよう支援している。併設施設の行事に参加したり、外食なども随時行っている。	

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	出来る人がいない。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	自由にして頂いている。（出来る人は）		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節、行事飾りつけなどで穏やかに時を過ごして頂くようにしている。	玄関前には春らしく草花を植えられ、生け花を飾ったり、壁飾りなど季節を感じる事ができる。居間は天井が高く、とても開放感がある。特に台所やトイレ、浴室は、匂いや消毒など衛生面に注意し、掃除を行っており、快適に過ごすことができる。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ソファの配置、椅子の配置などで工夫している。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	本人の持ち込みたい品は可能な限り持ち込んで頂いている。	床、壁も木目を基調とし、レースのカーテン越しに外の風景が見え、とても居心地がよい。壁一面に自分の塗り絵を飾っていたり、枕元にスタンドを置き、本が読めるようにされていたり、外出用のバッグや帽子が手の届く所に置かれていたり、それぞれの生活が感じられる。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	「トイレ」など本人で識別できる貼り紙などをしている。		